

乳幼児に多い主な感染症

1. 登園許可書が必要な感染症

病名	主な症状	潜伏期間	登園のめやす
インフルエンザ	突然の発熱・全身症状（関節痛、筋肉痛・下痢・嘔吐）呼吸器症状（咽頭痛・咳）	1～3日	発症した後5日間を経過し、かつ、解熱した後3日を経過するまで
百日咳	1～2週間で特有の咳発作になる 咳は夜間に悪化する	7～10日	特有な咳が消失するまで又は5日間の適正な抗菌性物質製剤による治療が終了するまで
麻疹（はしか）	発熱・くしゃみ・結膜炎・発疹	10～12日	解熱した後3日を経過するまで
流行性耳下腺炎 （おたふくかぜ）	発熱・耳の下が腫れる・食べると痛い	14～24日	耳下腺、顎下腺又は舌下腺の腫脹が発現した後5日を経過しかつ全身状態が良好になるまで
風疹（三日はしか）	発熱・発疹・リンパ節腫脹	14～21日	発しんが消失するまで
水痘（水ぼうそう） 帯状疱疹	胸や腹背、全身へと水疱疹	11～21日	全ての発しんが痂皮化するまで
咽頭結膜熱（プール熱）	発熱・結膜炎・咽頭炎（喉が痛い、赤い）	5～7日	主な症状が消失して2日を経過するまで
結核	発熱・咳・痰	28～42日	感染の恐れがなくなると認められるまで
腸管出血性大腸菌感染症 （O-157等）	腹痛・下痢・血便	3～8日	医師が感染の恐れがないと判断してから
流行性角結膜炎	眼瞼腫脹・異物感・目やに	5～12日	結膜炎の症状が消失してから
急性出血性結膜炎	眼瞼腫脹・異物感・目やに・結膜下出血	1～3日	医師が感染の恐れがないと判断してから
溶連菌感染症	発熱・咽頭痛・発疹	2～5日	解熱し抗菌薬内服を1日を経過していること。ただし治療の継続は必要
マイコプラズマ肺炎	風邪様症状・頑固な咳（解熱後も3～4週間咳が持続する）	14～21日	発熱や激しい咳が治まっていること
ウィルス性肝炎	発熱・倦怠感・頭痛・黄疸	28～49日	肝機能が正常であること
感染性胃腸炎 〔ノロウイルス ロタウイルス アデノウイルス等〕	発熱・嘔吐・下痢	1～3日	嘔吐下痢等の症状が治まり普段の食事が摂れること
細気管支炎 （RSウイルス感染症）	発熱・鼻汁・喘鳴・呼吸困難 （6ヵ月未満の乳児は重症化することがあり注意が必要）	2～8日	重篤な呼吸器症状が消失し全身状態が良いこと
髄膜炎菌性髄膜炎	頭痛、発熱、痙攣、意識障害、髄膜刺激症状	2～4日	病状により、医師が感染の恐れがないと認めるまで

2. 以下の感染症は登園許可書は必要ありませんが、医師の診断が必要です。

病名	主な症状	潜伏期間	登園のめやす
ヘルパンギーナ	高熱と共に口内炎	2～7日	発熱がなく（解熱後1日以上経過し）、普段の食事が摂れること
手足口病	口内炎・手のひら、足の裏に水疱	3～5日	
伝染性紅斑（りんご病）	両頬に紅斑・四肢に網状の紅斑	10～20日	全身状態が良いこと
突発性発疹	3～4日高熱・解熱後発疹	約10日	解熱し全身状態が良いこと
アタマジラミ・水いぼ・伝染性膿痂疹（とびひ）その他の感染性疾患については、医師の指示に従う			